2022年7月5日

各　位

「平成30年7月豪雨」被災団体対象
地域文化活動助成制度（特別募集）の助成先決定！

～地域文化再生と活動継続を応援～

株式会社伊予銀行（頭取　三好 賢治）は、「平成30年7月豪雨」被災団体を対象とする地域文化活動助成制度（特別募集）の助成先として、「大洲古学堂保存会」を決定しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

地域文化活動助成制度の「特別募集」は、「平成30年7月豪雨」にて被災された団体を対象に、その復興にかかる費用を助成し、地域文化再生と活動継続を応援するものです。

今回の贈呈先を含めて、15団体に対し、合計 約750万円の助成金贈呈となります。

記

〇助成先・内容

団　体　名	助成内容	被害状況
大洲古学堂保存会	古学堂「文庫」の修復	河川氾濫により大洲市阿蔵の古学堂が約1.8m浸水し、建物の床や土壁が大きく破損した他、書籍や版木、写真等の貴重な古資料、百点以上が被災。

〇助成金贈呈式

＜日　時＞　2022年7月13日（水）　10:00 ～ 10:30

＜場　所＞　大洲八幡神社　（大洲市阿蔵1844）

＜式次第＞
- 当行代表挨拶
- 助成団体の活動内容等のご紹介
- 助成金目録 贈呈
- 助成団体様からのお言葉 など

＜主な出席者＞　大洲古学堂保存会　会長　今井 要様
事務局　常磐井 守道様

当行　専務取締役　長田 浩
当行　大洲支店　支店長　河合 研二
当行　広報ＣＳＲ室　室長　赤塚 昌弘

以　上

【本件に関するお問い合わせ】　伊予銀行広報ＣＳＲ室（担当：松野）　TEL（089）907-1011

助成団体のご紹介

大洲古学堂保存会（おおずこがくどうほぞんかい）

助成対象: 古学堂「文庫」の修復

〈古学堂について〉

・「古学堂」は、320 年前の貞享・元禄年間に開かれた神職の子弟向けの私塾であるが、後に庶民に開放され、身分に関係なく誰もが利用できる図書館・学舎として 1876(明治 9 年)まで運営されていた。

・1750 年(寛延 3 年)に建てられた 2 階建の「文庫」部分と、1781 年(天明元年)に建てられた学舎の「学室」からなり、「伊予最古の図書館」とも言われている。(文庫部分は大洲市史跡指定)

・蔵書には、神道関係・国学等の書に加え、「後撰和歌集」「古事記」「日本書紀」など貴重な文学資料が多数あり、現在も約 1,500 冊が現存している。

・日本初の西洋式城郭 函館・五稜郭を設計した武田斐三郎、シーボルトの高弟で大阪大学医学部の前身 大阪医学校の設立に関わり、日本初の電信実験も行った蘭学者の三瀬諸淵（もろぶち）、尊王攘夷の志士 巣内式部（すのうちしきぶ）、大洲藩大参事を務めた山本尚徳等、幕末の日本を支えた多くの人材を輩出した。

〈大洲古学堂保存会について〉

・「平成 30 年 7 月豪雨」にて、古学堂は 1.8m まで浸水。床や土壁が大きく破損し、貴重な書籍や版木、写真等の古資料も百点以上が被災したことから、大洲の歴史的なパブリックスペースである古学堂を救い、その精神と歴史を後世に伝えようと、大洲史談会の会員らが中心となり、2019 年に「大洲古学堂保存会」を設立。具体的な修復計画の立案と、復興のための費用調達(寄付・募金)、将来的な活用施策の立案等を行っている。

・修復費用は、建物・外構・所蔵物全体で約 3,700 万円を要する見込みであり、クラウドファンディング等も活用しながら、広く支援を呼び掛けている。

・今年度中に「文庫」部分の修復を行った後、2023 年度中には学室・収蔵品等、全ての修復を終える予定である。

・古学堂の今後の活用計画としては、修復中に地域学習事業の一環として地元の小学生らの見学を受け入れ、古学堂のことを学んでもらうとともに、土壁の材料作りや屋根瓦の裏にメッセージを書くなどして修復作業を体験してもらい、幼少期から古学堂との繋がりを作る活動を行う。

・大学等と連携し、イベントやシンポジウム、勉強会等の開催を計画している。

(2018 年撮影)